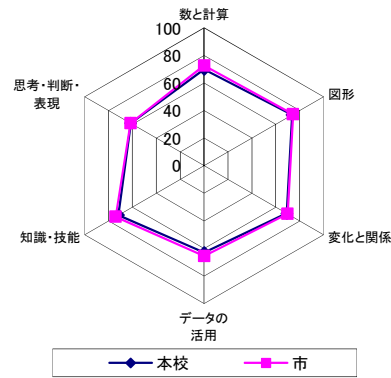


宇都宮市立瑞穂台小学校 第6学年【算数】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	数と計算	69.7	72.6	71.6
	図形	73.7	74.4	72.0
	変化と関係	69.2	69.8	62.6
	データの活用	63.0	65.5	59.1
観点別	知識・技能	71.7	74.1	68.9
	思考・判断・表現	61.5	61.6	63.7

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	平均正答率は市の正答率を、下回った。 ○図を使って文章問題に合った乗法・除法を選ぶ問題では市の平均を上回った。 ●小数や分数の計算にやや課題がみられた。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・計算の習熟に個人差がみられるので、繰り返し計算練習をするなどのスキル学習に取り組ませていく。 ・授業の中で、解法を説明したり理由を説明したりする活動を意図的に取り入れていく。 ・図や線分図から立式することに繰り返し取り組ませることで、図や線分図の意味を正しく読み取れるようにさせたい。 ・xやyなどの文字を用いた式に慣れ親しむように授業の中でしっかりと扱っていく。
図形	平均正答率は市の正答率を、やや下回った。 ○対称な図形について対応する辺を選ぶ問題では、市の平均をやや上回った。 ●外角の角度を求める問題では、正答率が59.0%で市の平均を12.7ポイント下回っていた。 ●合同な三角形の作図についての問題では、79.5%と市の平均を1.5ポイント上回っているものの、作図ができていない児童が20.5%もあり、個に応じた指導が必要である。	・基本的な内容の習得を大切に、繰り返し練習に取り組むなどして、さらに基礎基本の定着を図る。 ・学んだことを生かすような問題に取り組んだり、一つの問題でも様々な解き方があるという視点を意識して指導をする。 ・作図などの基礎基本を身につけさせるために、一人一人丁寧な指導を継続し、定着を図る。
変化と関係	平均正答率は市の正答率を、やや下回った。 ○単位量あたりの大きさや速さを求める問題では、問題の意味を理解し、言葉や式を使って説明できた割合が市の平均を3.1ポイント上回っている。しかし、無回答の児童が22.1%と高く、課題が残る。 ●図から面積と人数の割合を求め、こみ具合を考察する問題では、市の平均を5.9ポイント下回っていた。	・前学年で学習した内容を復習し、基礎的・基本的な指導事項を抑えながら、繰り返し学習していく。 ・文章問題を注意深く読み、何を求めたらいいのかを正確に把握してから、学んだことを使って解決に向かう指導をしていく。
データの活用	平均正答率は市の正答率を、下回った。 ○折れ線グラフや棒グラフの読み方については、市の平均を1.2ポイント、3.3ポイントずつ上回っていた。 ●ボランティア活動をしたことのある人の割合から比較する問題では、正答を選ぶことができたが、その理由を説明することが難しく、課題が見られる。	・グラフを見て情報を読み取る機会を多教科にまたがって意図的に取り入れ、理由や説明を記述する学習活動を重ねる。 ・グラフから得られる情報や考えの根拠となる理由を正しく記述できるように、重点的に押さえるべき箇所を指導するようにする。 ・理由を説明する活動で、正確に説明できる児童の発言を数人の児童に繰り返し説明させたり、ノートに書かせたりする活動を普段の授業から取り入れ、正しく説明する力を高められるようにする。